

総務教育常任委員会資料

(令和2年10月6日)

【項目】	ページ
1 『鳥取県の将来ビジョン』の改訂案について 【新時代・SDGs推進課】・・・	1
2 第1期総合戦略「鳥取県元気づくり総合戦略」の取組結果について 【新時代・SDGs推進課】・・・	4
3 安心観光・飲食エリア宣言について 【新時代・SDGs推進課】・・・	8

『鳥取県の将来ビジョン』の改訂案について

令和2年10月6日
新時代・SDGs推進課

8月21日から9月15日まで将来ビジョン改訂素案に対するパブリックコメントを実施したところ、県民の皆様（33名）から、SDGsの推進、女性の活躍推進、若者の県内での起業・創業、関係人口の創出、観光振興などに関して、95件の御意見をいただきました。

これらの意見や、9月県議会における議論も踏まえ、素案の変更を行い、別冊資料のとおり最終案を作成しました。今後は、10月中旬ごろに公表し、この将来ビジョンを踏まえ、総合戦略の見直しを行う予定です。

記

1 主な変更点

第4章 「2030年の鳥取県の姿」において下記の記述を追加

1 ひらく「(2) 県内企業が持続的成長を実現」

- ・中小・小規模事業者の事業が次の世代・事業者を引き継がれ、新たな事業展開が生まれている。

1 ひらく「(5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が進展」

- ・サイクリングやセーリングなど自然を活かしたスポーツが充実し、国内外からの誘客が進んでいる。

2 つなげる「(5) 国内外との交通ネットワークや物流拠点が充実」

- ・港湾を活用した産業振興が進んでいる。

3 守る「(2) 循環型社会・低炭素社会が確立」

- ・家庭、企業など地域が主体的に再生可能エネルギーを自らの活動に活用するなど、再生可能エネルギーが地域にとって身近な存在となっている。

6 育む「(1) 地域や職場との連携などにより、安心できる子育て環境が進展」

- ・妊娠や出産について、正しい知識の普及が進み、自らが希望するライフプランを実現できる環境が整っている。

6 育む「(2) 地域でチャレンジする者が増加」

- ・産学官連携によるリカレント教育プログラムや起業家養成プログラムが充実し、様々な年齢やキャリアを持った人材が活躍している。

2 最終案の概要

第1章 改訂の趣旨・将来ビジョンの性格

(1) 改訂の趣旨

2008（平成20）年に策定した将来ビジョンの基本的な考え方を継承しつつ、新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変容や、ロボットやAIなどの先端技術の進展とともに、先端技術で代替できない豊かな自然や人々の絆など、今後も変わらない本県の強みを踏まえた、2030（令和12）年における鳥取県の姿（持続可能な地域）を示すため、改訂する。

(2) 将来ビジョンの性格

- ・鳥取県のおおむね10年後の姿を県民の皆様と共有し、県政運営の基本となるもの。
- ・県民、NPO、団体、企業、教育機関、行政などの様々な主体と協働・連携して地域の持続可能な発展を実現していくための共通の指針となるもの。
- ・毎年度の予算編成時に具体の施策、個別の事業を県民の皆様とともに進めていくための指針となるもの。
- ・具体的な取組、施策については「鳥取県令和新时代創生戦略」、「令和新时代とっとり環境イニシアティブプラン」のほか、各分野における各種計画により推進する。

第2章 時代の流れと社会の変化

- ・新型コロナウイルス感染症拡大後の社会変化
- ・SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）
- ・デジタル技術の飛躍的進化による変革、Society5.0の推進
- ・人口減少・少子高齢化の進行
- ・地球温暖化と気候変動の状況、自然災害のリスクの高まり
- ・さらなる高速交通網の充実

第3章 基本理念

未来への挑戦～持続可能な地域の発展をめざして～

地域に関わる多様な主体の知恵と力を結集して、本県の強みを伸ばし、持続可能な地域の発展をめざすとともに、人生のあらゆるステージにおいて、心の豊かさを実感しながら充実した生活を安心して送ることができる鳥取県を県民の皆様とともに創る。

第4章 2030年の鳥取県の姿

1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく

- (1) 時代の変化に応じ新たな需要を獲得できる産業が創出（ニューノーマル型ビジネス等）
- (2) 県内企業が持続的成長を実現（デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進等）
- (3) 場所や時間にとらわれない働き方が実現（テレワーク、副業・兼業、ワーケーション等）
- (4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍（スマート農林水産業の推進等）
- (5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が進展

2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る

- (1) 県民、NPO、企業、市町村等との協働により持続可能な地域が実現
- (2) 移住定住（若者のI J Uターン等）や関係人口が増加
- (3) 住民が安全・安心に暮らし続けられる中山間地域が形成
- (4) 魅力があふれ人が集い、にぎわいのある中心市街地が形成
- (5) 国内外との交通ネットワークや物流拠点が充実
- (6) 超高速情報通信網が充実し、ICTの高度活用により産業や生活の質が向上

3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ

- (1) 新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対応する体制が確立
- (2) 循環型社会・低炭素社会が確立（プラスチックごみ・食品ロスの削減、温室効果ガスの削減等）
- (3) 人と自然が共生し、美しく豊かな自然が継承（生物多様性の維持等）
- (4) 先端技術を活用した医療、地域支援、健康づくりの実践で健康寿命が延伸（遠隔医療、フレイル予防、認知症予防等）
- (5) 地域ぐるみの活動で日常生活の安全が確保
- (6) 災害に強い県土の形成が進み、防災・危機管理対策が向上

4 楽しむ いきいきと楽しみながら充実した生活を送る

- (1) 豊かな自然、食、文化、歴史、芸術を知り楽しむことができる鳥取
- (2) ワーク・ライフ・バランスが充実し、活力ある生活が実現
- (3) いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境が実現
- (4) 誰もが学び、主体的にキャリアアップを図る機会が充実

5 支え合う お互いを認め、尊重して、支え合う

- (1) 多様性を互いに認め、支え合う共生社会
- (2) 家庭・地域・職場で心豊かに暮らせる男女共同参画社会
- (3) 障がい者・高齢者がいきいきと暮らす地域社会
- (4) DV、性暴力や児童虐待などの被害者や、支援の必要な方が生活しやすい環境が整備

6 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む

- (1) 地域や職場との連携などにより、安心して子育てできる環境が進展
- (2) 地域でチャレンジする者が増加
- (3) 子どもたちの地域への愛着と誇りが醸成（ふるさとキャリア教育の推進等）
- (4) 社会の変化に対応できる力を身につけた人材を育成（主体的・対話的で深い学びの推進、ICT活用教育等）

『鳥取県の将来ビジョン』（改訂素案）に係るパブリックコメントの結果について

- 1 実施期間 令和2年8月21日（金）から9月15日（火）まで
- 2 パブコメ等の意見件数 95件（意見者数：33名）
※県政アドバイザースタッフや鳥取創生チーム圏域会議からの意見を含みます。

3 主な意見と対応方針

分野	主な意見内容	対応方針
SDGs	①SDGsは複合的な取組であり、それぞれにたくさんの項目が関連することに留意してほしい。 ②（総合戦略の）KPI指標の活用に異論はないが、行政（県庁）の内輪だけでの評価ではない。将来ビジョンの取組に関して県民・経済界から「実感・共感」を得ることが必要。	①関連する主なゴールについて大小のアイコンで記述。【最終案に反映】 ②総合戦略のKPIについては鳥取創生チーム拡大会議で検証。SDGsの観点からはローカル指標を策定し、様々な主体が参画するSDGsネットワークで共有することとしている。
産業（女性活躍、事業継承等）	①女性のエンパワーメントが進んだ県になってほしいという意味から、女性活躍が伝わる文言等を追加してほしい。 ②県内企業と都市部の企業との連携やオープンイノベーションを促進する視点を入れてほしい。 ③中山間地域の生活を守っている、中小・小規模事業者の持続可能な内容も含めてほしい。	①様々な産業（農林水産、建設、情報通信等）で女性の活躍が進んでいることを記述。【最終案に反映】 ②オープンイノベーションの活発化について記述。【最終案に反映】 ③中小・小規模事業者の事業承継について記述。【最終案に反映】
移住・定住・関係人口	①若者の転出理由としては県内企業数が少なく、自分が希望する職種が存在しないこともある。自分で会社を興すという選択肢を認識させるような取組も必要。 ②関係人口創出を早期に実現し、地域事業者の理解と参画、協力関係を新たに構築することが必要。	①県内企業への就職に加え、自ら起業・創業し希望する職に就いている姿を記述。【最終案に反映】 ②関係人口受入の取組が各地域で展開され、多様な関係人口の関わりによる地域活性化について盛り込み済み。
観光	①サイクリングをはじめとしたアドベンチャーリズムを促進してほしい。 ②他地域にない鳥取県独自・唯一のコンテンツが生まれてほしいという県民の皆さんの期待も踏まえて、もう少ししごった表現（世界初、日本初、国内唯一など）であってほしい。	①サイクリングなど自然を活かしたスポーツが充実し、国内外からの誘客が進んでいる姿を記述。【最終案に反映】 ②地域資源を活かした観光コンテンツの具体例として、「世界に誇るまんが山陰海岸ジオパーク、大山」を記述。【最終案に反映】
教育・人材育成	①シビックプライド醸成の方向性は賛成。同テーマを県内小学校教育の必須プログラムとすること、体験教室や研修の場の提供を充実させること等が必要。 ②子どもの教育の中に音楽や絵画に親しむといった、芸術に触れる機会を作してほしい。	①ふるさとキャリア教育や地域を題材とした体験活動や地域課題解決に向けた探究的な学習の充実について盛り込み済み。 ②県立美術館等での体験、学習などを通じて、幼少期から豊かな創造性が育まれている姿を記述【最終案に反映】
デジタル・先端技術	①ITの重視とは、今までできなかったことを実現し、それが生み出す利潤を以前よりも豊かな社会につなげることにある。 ②超高速通信網を早急に整備していく必要があり、数値目標が他県と比較してそんな色ない水準にすることが必要。	①AIやロボットなどの先端技術によって未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出する「Society5.0」の推進について記述。【最終案に反映】 ②現在でも県内普及率は99.5%となっている。
農林水産業	①鳥取県の農産物として県全体の包括的なブランドイメージ確立が進めば、都市部等の県外においても、県産品を選んで購入してもらえる。 ②鳥取県の特産物である「梨」などの担い手の高齢化が深刻な課題。	①世界に通じるブランド力を持った農林水産物が次々と生まれている姿を盛り込み済み。 ②新規就業や他産業からの参入が進み、多様な担い手が数多く農林水産業に従事している姿を盛り込み済み。
支え合い	①多くの人が手話を学び、さまざまな障害に応じたコミュニケーション手段が官民で当たり前保障（情報保障）されている、などの文言を入れてほしい。 ②鳥取の自然の中でおおらかな心を持ち、他人に対する偏見を持たず、お互いを受け入れる社会を目指してほしい。	①情報保障を含めたユニバーサルデザインが広く普及し誰もが暮らしやすい環境が整っていることを盛り込み済み。 ②誰もが認め合い、支え合う社会づくりが進み、誰もが安心して自由に自分らしく生活している姿を盛り込み済み。

第1期総合戦略「鳥取県元気づくり総合戦略」の取組結果について

令和2年10月6日
新時代・SDGs推進課

平成27年10月に「鳥取県元気づくり総合戦略」（第1期総合戦略）を策定し、令和2年3月までの計画期間中、地方創生の実現に向けて取り組みましたので、その結果を報告します。

1 取組結果

(1) 概要

全国に先駆けた子育て支援の充実やI・J・Uターンの促進をはじめとする地方創生の実現に向けた施策が功を奏し、合計特殊出生率は回復基調（平成22年：1.57⇒令和元年：1.63）にあるとともに、移住者は毎年過去最多を更新（平成22年：607人⇒令和元年：2,169人）したことなどにより、令和22年時点における将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所。平成30年3月）は、47万2千人となり、前回推計（平成25年3月）の44万1千人から、3万1千人上振れるなど、着実に成果が現れてきています。

(2) 基本目標

9項目の基本目標（数値目標）のうち、外国人宿泊者数、I・J・Uターン受入者数、正規雇用創出数等の5項目を達成するとともに、農林水産業新規就業者数の1項目を概ね達成しました。

一方、若者の県外への進学や県外への就職などにより、社会減は依然として歯止めがかかっておらず、転出超過数の項目は「進展しなかった」結果となりました。

<基本目標の達成状況>

項目		目標値	最終実績	達成状況
自然	観光入込客数	1,100万人/年	1,013万人	進展した
	外国人宿泊者数	15万人/年	18.5万人	達成
	農林水産業新規就業者数	1,800人/5年累計	1,620人	概ね達成
絆	合計特殊出生率	1.74/年	1.63	進展した
	鳥取県未来人材育成奨学金就業者数	600人/4年累計	689人	達成
	ふれあい共生ホーム設置数	19市町村、65箇所	19市町村、72箇所	達成
時間	I・J・Uターン受入者数	8,000人/5年累計	10,427人	達成
	正規雇用創出数	10,000人/4年累計	13,382人	達成
	転出超過数	550人/年	1,248人	進展しなかった

(3) 個別の取組項目

第1期総合戦略で取り組んだ230の項目のうち、「達成」又は「概ね達成」が210項目となり、概ね9割の取組で成果が出ました。

<取組の達成状況>

評価区分	項目数
A 達成	88
A' 概ね達成	122
B 進展した	15
C 進展しなかった	5
合計	230

【評価方法】

①KPI設定がある項目

項目毎の5年間の取組成果を定量的・定性的に評価
（基本となる評価基準）

- A（達成）：達成率100%以上
A'（概ね達成）：達成率80%以上
B（進展した）：達成率50%以上80%未満
C（進展しなかった）：達成率50%未満

②KPI設定がない項目

項目毎の5年間の取組成果を定性的に評価

210項目
91.3%

⇒【進展しなかった項目（5項目）】

- ・年度中途の待機児童解消に向けた保育の受け皿確保
[KPI] 年度中途の保育所等の待機児童数：89人（H26年度）→85人（R1年度）[目標：解消]
- ・男性の育児に参加する機運の醸成
- ・男性の自発的・積極的な育児休業等を喚起するための普及啓発の充実
[KPI] 男性の育児休業取得率：3.1%（H23年度）→5.6%（H29年度）[目標：15%]
- ・介護職の認知度・イメージ向上、労働環境・処遇の改善など総合的な介護人材確保対策の実施
[KPI] 県内介護職員数：10,873人（H27年度）→10,694人（H30年度）※R1年度 数値未確定 [目標：11,220人]
- ・FCV（燃料電池自動車）の普及、「クリーン水素」供給インフラの整備
[KPI] 水素供給インフラ整備数：0（H27年度）→1（R1年度）[目標：4]

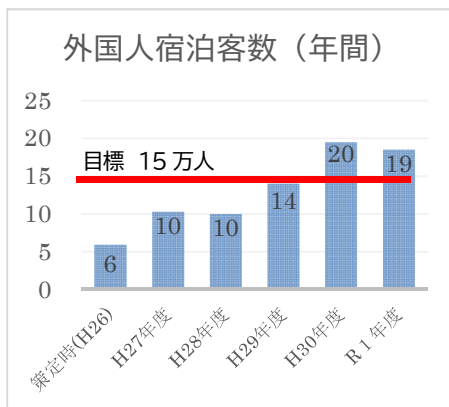
2 今後の対応

このたびの第1期総合戦略の評価結果や、今般策定する「鳥取県の将来ビジョン」、また、新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化も踏まえ、総合戦略の検証機関である「鳥取創生チーム拡大会議」や議会での議論を経て、第2期総合戦略の改定を年度内に行う予定としています。

1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ~鳥取+ism~

■基本目標に対する評価

≪基本目標≫



■個別評価(主な項目)

≪項目達成状況≫

		A		A'		B		C		項目数計
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	
自然	観光・交流	6	23.1%	19	73.1%	1	3.8%	0	0%	26
	農林水産	12	28.6%	25	59.5%	5	11.9%	0	0%	42
	エコスタイル	5	35.7%	7	50.0%	1	7.1%	1	7.1%	14
計		23	28.0%	51	62.2%	7	8.5%	1	1.2%	82

①観光・交流

・「とっとりロングトレイルコース」等のサイクリングルートの整備、ジャマイカ代表チーム等の東京五輪事前キャンプ誘致、2018(H30)年9月に全日本マスターズ陸上選手権大会(鳥取市)等のスポーツイベント開催など、スポーツを通じた観光・交流を実施しました。

[主なKPI:スポーツイベント・キャンプ地誘致件数 実績(R1) 31件(5年間累計)【達成】(目標(R1) 25件)]

・星取県や蟹取県の取組をはじめ、鳥取県の認知度を高めるイメージ発信を行うなど、SNS等の広報媒体を効果的に活用した戦略的な情報発信を行うとともに、「トワイライトエクスプレス瑞風」、「あめつち」といったJR西日本が運行する観光列車や、若桜鉄道「昭和」、智頭急行「あまつぼし」などを活用し、「鳥鉄の旅」として新たな旅の提案を行うなど、様々な角度からの誘客により、観光客の増加につながる結果となりました。

・米子ソウル便の増便、米子香港便・米子上海便の新規就航、国際チャーター便やクルーズ船の運航を通じて、外国人誘客を図るとともに、関西広域連合の枠組みのもと、周辺県やJR西日本などとの広域連携による情報発信や共同プロモーションを実施し、評価指標である外国人観光客宿泊数は堅調に推移し目標を達成しました。

[主なKPI:外国人宿泊客数(年間) 実績(R1) 18.5万人【達成】(目標(R1) 15万人)]

②農林水産

・産地が主体的に新規就農者の受入体制を整え、産地の後継者を育成取組に対して支援するとともに、漁業の新規就業者確保に向けた研修、新たな雇用の場を確保するための支援(代船建造支援、養殖場建設支援等)の充実により、評価指標である農林水産新規就業者数は順調に推移し、目標を概ね達成しました。

[主なKPI:農林水産業新規就業者数 実績(R1) 1,620人(5年間累計)【概ね達成】(目標(R1) 1,800人)]

・畜産分野においては、第11回全国和牛能力共進会宮城大会で鳥取和牛が肉質日本一を獲得し、県内和子牛県平均セリ価格は高水準となったほか、畜産経営のさらなる競争力強化を図るため、国の畜産クラスター事業を活用した牛舎整備や繁殖雌牛の増頭等により、生産基盤の基盤強化、収益向上につながり、評価指標である和牛繁殖雌牛頭数も目標を達成しました。

[主なKPI:和牛繁殖雌牛頭数 実績(R1) 4,089頭【達成】(目標(R1) 3,900頭)]

・国際認証の取得支援、販路開拓、マッチングなど事業者への支援を充実させてことにより、輸出に取り組む事業者数は順調に増加し、評価指標である農林水産物及び加工品の年間輸出額は目標を達成しました。

[主なKPI:農林水産物及び加工品の年間輸出額 実績(R1) 18.7億円【達成】(目標(R1) 8.0億円)]

③エコスタイル

・再生可能エネルギーの導入量は、「第2期とっとり環境イニシアティブプラン」で定める目標を達成したほか、エネルギーの地産地消が進むなど、環境にやさしい地域づくりが進み、再生可能エネルギー導入量等、評価指標の目標を達成しました。

[主なKPI:再生可能エネルギー導入量 実績(R1) 1,028MW【達成】(目標(R1) 980MW)]

2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む ～鳥取＋住む～

■基本目標に対する評価

≪基本目標≫



■個別評価(主な項目)

≪項目達成状況≫

		A		A'		B		C		項目数計
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	
絆	出会い・子育て	10	37.0%	13	48.1%	1	3.7%	3	11.1%	27
	人財とっとり	15	34.1%	22	50.0%	6	13.6%	1	2.3%	44
	支え愛	10	55.6%	8	44.4%	0	0%	0	0%	18
計		35	39.3%	43	48.3%	7	7.9%	4	4.5%	89

①出会い・子育て

・2015(H27)年12月に設置した「とっとり出会いサポートセンター えんトリー」による結婚希望者同士のマッチングでは、情報発信、出会いの場づくりなどの取組により、結婚希望者のマッチングが順調に進みました。

[主なKPI: えんトリーによる成婚数 実績(R1)115組(うち会員同士 56組)【達成】(目標(R1) 80組(うち会員同士 40組))]

・2016(H28)年度に「不妊専門相談センター」を西部地域に設置するなど、全県的な相談支援体制の整備を進め、子育て世代包括支援センターが県内全市町村に設置されたほか、評価指標である子育てしやすい環境づくりを実施する家庭教育推進協力企業数が目標を達成しました。

[主なKPI: 家庭教育推進協力企業数 実績(R1) 780社【達成】(目標(R1) 700社)]

・県内19市町村で生活困窮世帯等の児童生徒への学習支援が実施され、子ども食堂等に取り組む団体や支援機関によるネットワークへの活動支援等により子ども食堂を含む子どもの居場所が増加したほか、評価指標である子どもの貧困対策としての子ども居場所の数等、目標も達成しました。

[主なKPI: 子どもの貧困対策としての子どもの居場所の数 実績(R1) 51箇所【達成】(目標(R1) 30箇所)]

②人財とっとり

・奨学金の貸与等により、地域医療を支える医療従事者の確保が順調に進み、評価指標である医療従事者の新規正規雇用者数について、看護師・理学療法士については目標を達成するとともに、医師についても概ね達成しました。

[主なKPI: 医療従事者の新規正規雇用者数(看護師) 実績(R1) 1,163人(5年間累計)【達成】(目標(R1) 700人)]

・令和新时代創造県民運動(2019(R1)年度～)(旧:トトリズム県民運動。以下同じ。)の実践団体は、登録目標数が460団体であるところ、468団体が登録し、評価指標の目標を達成しました。多様な主体が取り組む地方創生に繋がる様々な取組を支援することで、幅広い年代の多くの主体により令和新时代創造県民運動が拡大・展開されました。

[主なKPI: 令和新时代創造県民運動実践団体登録数 実績(R1) 468団体【達成】(目標(R1) 460団体)]

③支え愛

・「支え愛マップづくり」を通じて明らかになった地域課題に対し、避難時の支援方法・体制の見直し、また過年度に行った取組の見直しが行われるなど、マップづくりに留まらない支え愛活動に繋がるとともに、防災士養成研修や避難所運営をテーマとした研修を通じて、地域防災リーダーや避難所運営リーダーを継続して養成することができました。

[主なKPI: 支え愛マップづくり取組自治会数 実績(R1) 604箇所【達成】(目標(R1) 600箇所)]

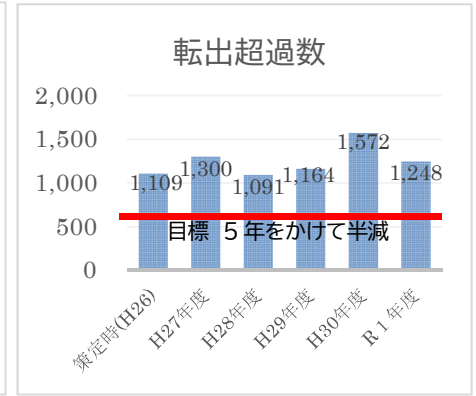
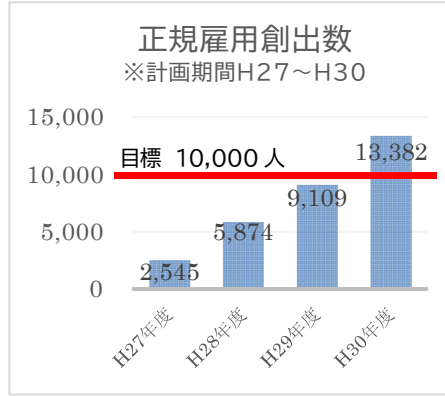
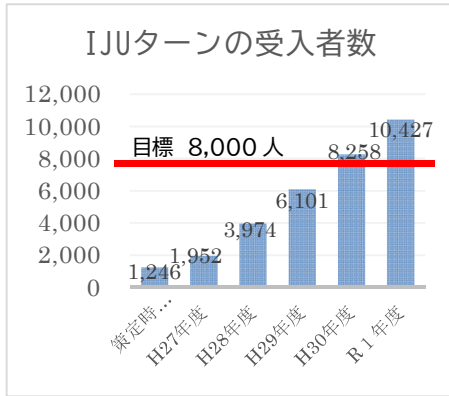
・2017(H29)年にあいサポート条例を制定し、県民運動として位置付けたあいサポート運動について、研修会等を開催し、あいサポーターを多数養成しました。また、あいサポート運動の協定を締結し、連携は7県13市5町に拡大、あいサポーター数は評価指標の目標を大幅に超える数を達成しました。

[主なKPI: あいサポーター数 実績(R1) 544,116人【達成】(目標(R1) 410,000人)]

3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ ～鳥取＋rhythm～

■基本目標に対する評価

≪基本目標≫



■個別評価(主な項目)

≪項目達成状況≫

		98.3%				B		C		項目数計
		A		A'						
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	
時	移住定住	8	50.0%	7	43.8%	1	6.3%	0	0%	16
	働く場	12	48.0%	13	52.0%	0	0%	0	0%	25
	まちづくり	10	55.6%	8	44.4%	0	0%	0	0%	18
計		30	50.8%	28	47.5%	1	1.7%	0	0.0%	59

①移住・定住

・市町村や地域団体などと連携しながら移住者に寄り添った受入施策を進めるとともに、住まい、仕事、子育て等に係るワンストップ相談窓口「鳥取県移住定住サポートセンター」の運営、各分野に係る支援窓口、支援施策等を一冊で紹介する「鳥取県来居暮本」やSNS等の活用により情報発信を充実させたことにより、R1年度に本県への移住者が過去最高となるなど、評価指標であるIJUターン受入者数の累計で目標を達成しました。

[主なKPI:IJUターンの受入者数 実績(R1) 10,427人(5年間累計)【達成】(目標(R1) 8,000人)]

②働く場

・県独自の経営革新支援制度によって、県内企業が行う新事業展開・生産性向上に向けた研究・技術開発の支援、雇用や設備投資を支援し、評価指標の目標を超える数の企業が経営革新に取り組みました。

[主なKPI:経営革新認定企業数実績(R1) 1,217件(5年間累計)【達成】(目標(R1) 1,200件)]

・2015(H27)年度より実施した正規雇用1万人チャレンジにおいて、県内企業の新規事業・投資支援等を通して正規雇用の拡大を支援し、評価指標である非正規から正規雇用の転換者数の目標を達成しました。

[主なKPI:非正規から正規雇用の転換者数 実績(R1) 2,146人(5年間累計)【達成】(目標(R1) 1,000人)]

・山陰自動車道「鳥取西道路」において、鳥取西IC～青谷IC間が、2019(R1)年5月に開通し、評価指標である県内高速道路ネットワークの共用率の目標を達成しました。また、山陰道「北条道路」が本格的に工事着手されるなど、地方経済への波及効果が期待される高速道路ネットワークの整備が進みました。

[主なKPI:県内高速道路ネットワークの共用率 実績(R1) 75.8%【達成】(目標(R1) 63%)]

③まちづくり

・鳥取砂丘コナン空港、米子鬼太郎空港では、増便による利便性向上等により、利用者が順調に伸びました。倉吉駅北街路の整備も順調に進んでいるほか、竹内南地区貨客船ターミナルの2020(R2)年度春の供用開始に向けて順調に進捗しているなど、交通の結節点を拠点とする地域のにぎわいづくりが進みました。

[主なKPI:鳥取砂丘コナン空港利用客数(一般来場者含む) 実績(R1) 800,628人【達成】(目標(R1) 460,000人)、

米子鬼太郎空港利用客数 実績(R1) 638,342人【概ね達成】(目標(R1) 650,000人)]

・美術館の整備について、2015(H27)年度から専門家や県民の意見を踏まえ、基本構想(H29年3月)や基本計画(H30年7月)を策定、美術館・博物館等ネットワークの強化推進に向けた取組や、県民とともに編集発行するフリーペーパー「Passme!」を発行し、美術館の取組に対する県民への周知等に取り組みました。

・全市町村で、県民生活の基盤となる光ファイバー等による超高速情報通信網が利用できる環境整備を進め、2017(H29)年度に全19市町村で超高速情報通信網が利用できる環境が整いました。

[主なKPI:超高速情報通信網整備市町村数 実績(R1) 19市町村【達成】(目標(R1) 19市町村)]

安心観光・飲食エリア宣言について

令和2年10月6日
新時代・SDGs推進課

観光地や飲食店街の団体が、安心して観光や飲食を満喫していただけるエリアを創出するため、自主的に、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策に取り組み、県と市町村がその取組の支援を行う、「安心観光・飲食エリア」の取組について、8月31日に協定を締結した鳥取砂丘エリアと大山寺エリアが「安心観光・飲食エリア」宣言を行いましたので報告します。

記

1 大山寺エリア（9月28日に宣言）

(1) エリアの概要

大山寺参道周辺の旅館、土産品店、飲食店、大山寺、観光施設（大山自然歴史館）など33事業者

(2) エリア内の感染拡大予防対策の取組

9月23日までにエリア内の全事業者が、新型コロナウイルス感染予防対策協賛店制度の届出を提出済み。同日、(一社)大山観光局、大山旅館組合、大山町と県で、エリア内事業者の感染拡大予防対策の実践状況を確認。

(3) 関係者のコメント

・大山観光局 足立代表理事

「コロナの影響で観光事業が大打撃を受けているが、この宣言によって、観光客にもたくさん来ていただき、少しでも活気を取り戻したい」

・大山旅館組合 山根組合長

「大山の観光地が前の姿に戻るよう感染予防対策を徹底するので、安心して観光や登山を楽しんでいただきたい。」

2 鳥取砂丘エリア（10月3日に宣言）

(1) エリアの概要

鳥取砂丘東側エリアの土産品店、飲食店、アクティビティ事業者、観光施設など23事業者

(2) エリア内の感染拡大予防対策の取組

9月29日までにエリア内の全事業者が、新型コロナ対策認証事業所の認証登録（鳥取砂丘砂の美術館）又は新型コロナウイルス感染予防対策協賛店制度の届出を提出済み。同日、鳥取大砂丘観光協会、鳥取市と県でエリア内事業者の感染拡大予防対策の実践状況を確認。

(3) 関係者のコメント

・鳥取大砂丘観光協会 山根会長

「エリアで感染予防を徹底し、観光客が、鳥取砂丘に行ってきたと胸を張って言える観光地となるよう取り組んでいきたい。」

・鳥取砂丘アクティビティ協会 長谷川副会長

「安心宣言を契機に、都会の方に癒やしを届けていけるよう努力していきたい。」

3 他の地域の状況

県内の他地域においても検討が進められており、引き続き市町村とともに協定締結・宣言に向けて支援していく。

<参考：「安心観光・飲食エリア」の取組について>

○協定締結から宣言までの取組

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策を自主的に徹底する意向のある観光地や飲食店街の団体と県・市町村が「安心観光・飲食エリア」協定を締結。
- ・団体は、エリア内の事業者に感染拡大予防対策を呼びかけるとともに協賛店・認証事業所制度を推進し、県は、説明会の開催や個別の助言等により協賛店の届出や認証事業所の認証取得を支援。
- ・エリア内の全ての事業者が新型コロナウイルス感染予防対策協賛店の届出又は新型コロナ対策認証事業所制度の認証取得を行いエリア内で感染拡大予防対策が徹底できていると、団体が判断した際「安心観光・飲食エリア」を宣言。

○宣言後の取組

- ・団体がエリア内事業者の感染拡大予防対策の実施状況を2週間ごとに点検。
- ・県と市町村が連携してエリア内事業者の感染拡大予防対策の実施状況を1カ月ごとに確認。
- ・エリア内の協賛店届出事業者に対して勉強会の開催や感染拡大予防対策実践状況の確認時等における助言などにより認証事業所の認証取得を推進。
- ・県、市町村、団体がそれぞれ県内外に情報発信。